

第61回日本網膜硝子体学会総会

ランチョンセミナー1

日時 2022年12月2日(金) 13:20~14:20

会場 第1会場（大阪国際会議場 5F メインホール）

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

現地開催

オンデマンド配信

配信期間：2022年12月19日(月)～2023年1月15日(日)

メカニズムから考えるDME治療の薬剤選択



座長

石田 晋 先生

北海道大学大学院 医学研究院 眼科学教室 教授

講演

アイリーアの作用機序からみたDMEの病態コントロール



演者

植村 明嘉 先生

うえむら眼科クリニック 院長

※本セミナーのご参加にあたり、弊社による旅費の負担はできませんことをご了承ください。

開催形式などの最新情報につきましては、学会ホームページをご参照ください。

第61回日本網膜硝子体学会総会

共催



Bayer バイエル薬品株式会社

Santen 参天製薬株式会社



メカニズムから考えるDME治療の薬剤選択

師走に入り2022年も終わりに近づいてきている中で、この1年を振り返ると、DME治療においては、新規メカニズムの薬剤の上市、新たに適応追加をした薬剤など、治療選択肢は一気に広がり、臨床の場においても、患者さんにとっても喜ばしい変化の1年となった。また、2023年にはバイオ後続品のDMEへの参入も予想されていることから、益々薬剤選択の幅が広がっていくことが予想される。そしてその恩恵を更に高めていくためには、それぞれの薬剤の特徴を把握、理解した薬剤選択を行うことが大切になってくることは容易に想像できる。実際、現代の創薬は、それぞれ意図を持った薬剤開発のデザインが行われており、DMEの治療に用いられる抗VEGF薬もそれぞれの特徴が活かされた薬剤のラインナップが揃いつつある。そこで、当セミナーでは、新たな治療選択肢が増えつつあるDMEでの治療/薬剤選択を考えていく中において、求められる薬剤の特徴は何か、考慮すべきポイントは何処かを確認しつつ、その主因であるVEGFの役割を再度振り返る。DMEの病態に合わせ理に適った薬剤選択についての考え方を薬剤のメカニズムの特徴から考え理解を進めてゆくことで、改めてご参加の先生方において日々のDME治療に対する一助となる機会としたい。



座長

石田 晋 先生

北海道大学大学院 医学研究院
眼科学教室 教授

■ご略歴

- 1984 年 筑波大学附属駒場高等学校卒業
- 1990 年 慶應義塾大学医学部卒業、同眼科研修医
- 1994 年 佐野厚生総合病院眼科医長
- 1995 年 慶應義塾大学医学部眼科学教室助手
- 2001 年 米国ハーバード大学眼科研究員
- 2004 年 慶應義塾大学医学部眼科学教室講師
- 2005 年 慶應義塾大学総合医科学研究センター
網膜細胞生物学研究室主任
- 2008 年 慶應義塾大学医学部稻井田記念抗加齢眼科学講座准教授
- 2009 年 北海道大学大学院医学研究科眼科学分野教授
- 2017 年 北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室教授
現在に至る

講演

アイリーアの作用機序からみたDMEの病態コントロール



演者

植村 明嘉 先生

うえむら眼科クリニック 院長

■ご略歴

- 1996 年 京都大学卒業
- 1997 年 北野病院研修医
- 2003 年 京都大学大学院博士課程修了
理研 CDB 研究員
- 2007 年 神戸市立医療センター中央市民病院副医長
- 2009 年 神戸大学血管生物学分野特命助教
- 2014 年 名古屋市立大学網膜血管生物学寄附講座教授
- 2020 年 うえむら眼科クリニック院長
名古屋市立大学客員教授
愛媛大学客員教授
国立循環器病研究センター客員部長
現在に至る

